

このコーナーでは、「お便り」や「写真」をお待ちしています。

【投稿について】

- ◆お便りは200文字以内。写真は1枚につき50文字以内。(文章は、必要に応じて添削します)
- ◆住所・氏名・年齢・電話番号・ペンネーム(記入がない場合イニシャルで掲載)を記入の上、ご投稿ください。
- ◆投稿は、はがき・封書・FAX・メールまたは直接伊佐PR課(大口ふれあいセンター2階)へ
- ◆締切は、毎月10日
- ※営利目的や個人、団体を批判・中傷するような内容は掲載できません。
- ※紙面の都合上、掲載できないこともあります。
- ◆投稿の中から抽選でプレゼントが当たります。当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。



11月号の
プレゼント

【投稿・問い合わせ先】

〒895-2511
伊佐市大口里2845番地2
伊佐PR課
「和みのひろば」係

☎ 0995-23-1311
Fax 0995-22-5344
✉ koho@city.isa.lg.jp



今年も甲子園に勝利の校歌が響く。それを聞くと血が騒ぐ。
目の黒いうちにぜひとも聴きたい校歌がある。郷土の文豪海音寺潮五郎作詞、古関裕而作曲の大口高校校歌。最高の舞台で誇りの校歌が吹奏されるそんな日を夢見るだけでもぞくぞくする情景ではありませんか。
叶わぬ夢とは言うまい!ビックの思いも天に昇つ!!と言うではありませんか。長生きしもそ!!

(大口東 夢見る姿姿 90代)

錢湯で知らない人に「おつかれさま」と言いました。びっくりして、あなたは私の何を知っているの?普通は、「こんにちは」とか「こんばんは」では?と思いましたが、「お疲れ様です」と返しました。小学生のあいさつ運動がありますが、あんな感じなのでしょうか。お風呂に来ているのですから「おつかれさま」はほっこりしますが…。最近では、こちらからも言うようになりました。広報い

さに携わっている方々「お疲れ様です」
(本城 ほかさんといて 60代)

神奈川県に住む友人から伊佐米の看板を見つけたと連絡があった。なぜここに伊佐米がと、店主に伺うと「伊佐は寒暖の差が強いので美味しい米がとれる。菱刈まで買付けに行く。新潟のコシヒカリに匹敵する美味しさなのに宣伝が」と。早速買い求め家族で味わったとのこと。後日コシヒカリを食べたが、伊佐米が美味しいのは言うまでもない。作付面積の少ない伊佐米。これを逆手に取り伊佐米のPRを考えてみませんか! (田中 ユンちゃん 60代)

「コンちやんせん、今年はチラシやポスター、イベントなど例年以上の伊佐米PRを予定しています。今回を機に、たくさんの人々に伊佐米の魅力をお届けできると嬉しいですね。

生まれてからずっと伊佐に住んでいた私は、伊佐に住んでいた私にとって、移住された方々のお話はとても新鮮でした。移住を決められた経緯や今の生活について皆さんを感じていることをお聞きして、自分が今まで考えたこともない事や、新しい気付きがありました。

以前、森教育長が「仕事を知り、まちを知り、人を知ることが成長に繋がる」とおっしゃっていたのを思い出しました。今回の取材を通して、これからもたくさんの人と出会い、多くを知り、学び、成長していくことを改めて感じました。

お忙しい中、取材にご協力いただいた5人の方々、関係の皆さま、誠にありがとうございました。



編集後記

